

2024年度のボランティア支援実績

◆学生のボランティア登録数・派遣数・ボランティア依頼数実績

2025年3月7日現在

年 度	新規登録学生数	派遣学生数	ボランティア依頼数
2015年度計	164名	349名	181件
2016年度計	259名	235名	140件
2017年度計	327名	443名	287件
2018年度計	363名	490名	271件
2019年度計	460名	572名	238件
2020年度計	223名	154名	98件
2021年度計	397名	323名	141件
2022年度計	579名	924名	186件
2023年度計	462名	791名	195件
2024年度計	376名	691名	186件
累 計	3,610名	4,972名	1,923件

※ボランティア支援室が開設した2015年1月15日～3月分は2015年度計に計上
※2015年度～2023年度卒業生2059名含む

◆2024年度 学生のボランティア参加実績(抜粋)

カテゴリー	活動名	依頼	形態	活動日	参加学生数
まちづくり・イベント支援	よこすかカレーフェスティバル 2024	横須賀市市民活動サポートセンター	単発	5月18日・19日	16名
まちづくり・イベント支援	四季の森公園まつり	公益財団法人神奈川県公園協会 神奈川県四季の森公園	単発	4月29日	8名
まちづくり・イベント支援	小田急沿線おしごと体験イベントのボランティアスタッフ募集	一般社団法人夢らくぎプロジェクト	単発	8月9・20日	4名
まちづくり・イベント支援	第16回鎌倉路地フェスタ	鎌倉路地フェスタ実行委員会	単発	4月20日～29日	9名
まちづくり・イベント支援	令和7年二十歳の市民を祝うついで実行委員募集	横浜市教育委員会事務局	単発	月1～2回の会議・1月12日・13日	2名
学習支援	外国につながる子どもたちのための夏休み宿題教室	鶴見国際交流ラウンジ	単発	8月19日～23日	2名
学習支援	外国につながる小中学生の冬休みなんでも教室ボランティア	横浜市港北国際交流ラウンジ	単発	12月27日・28日	3名
学習支援	学習支援 みやま塾	NPO法人 宮ノマエストロ みやま塾	通年		2名
学習支援以外の子ども・青少年支援	「第24回いきいきセンター金沢まつり 晴麗かなざわ」ボランティア	公益財団法人横浜市老人クラブ連合会	単発	11月9日	3名
学習支援以外の子ども・青少年支援	ファミリーエージェンシーイベント	ファミリーエージェンシー	単発	6月9日・12月1日	7名
学習支援以外の子ども・青少年支援	ホッとサロンすくすく	金沢子ども食堂すくすく	単発・通年	9月15日・月2回(日)	延べ5名
学習支援以外の子ども・青少年支援	みんなの放課後クラブ 夏企画	みんなの放課後クラブ	単発	7月24日・30日・8月9日・29日	2名
学習支援以外の子ども・青少年支援	子どもアドベンチャーカレッジ2024 学生サポーター	横浜市教育委員会事務局	単発	8月6日～8日、6月～8月は月1回の会議	3名
学習支援以外の子ども・青少年支援	小学4年 野島体験学習引率ボランティア	横浜市立東小学校	単発	7月4日～5日の1泊	2名
学習支援以外の子ども・青少年支援	小学校宿泊体験学習児童引率補助(5・6年生)	横浜市立豊岡小学校	単発	5年/6月10日～11日、6年/5月16日～17日	3名
学習支援以外の子ども・青少年支援	新杉田地域ケアプラザ 小学生対象夏休み講座	社会福祉法人電機神奈川福祉センター 横浜市新杉田地域ケアプラザ	単発	7月31日・8月6日	5名
障害児・者支援	横浜市立図書館 テキストデザイン制作ボランティア	横浜市中央図書館サービス課	通年		1名
高齢者支援と健康に関する活動	スマホ教室・相談会と高齢者と交流! SAKAEスマホサポーター(1期・2期)	栄区福祉保健センター 高齢・障害支援課	単発	1期/6月15日～7月10日、2期/8月16日～9月23日	延べ6名
高齢者支援と健康に関する活動	院内案内ボランティア	公立大学法人横浜市立大学附属病院 医事課	通年		3名
高齢者支援と健康に関する活動	薬物乱用防止啓発活動	ライオンズクラブ国際協会 330-B 地区	通年	10月25日～	3名
自然・環境保全活動	湘南ビーチクリーンアクション 2024	神奈川県政策局いのち・未来戦略本部 科学技術グループ	単発	11月9日10日・12月1日・8日	2名
自然・環境保全活動	水源林間伐ボランティア体験ツアー	横浜市水道局広報課	単発	9月4日	9名
文化・芸術・スポーツに関する活動	SOMPO JAPAN CUP ボランティア	公益財団法人 日本ホッケー協会	単発	6月30日	10名
文化・芸術・スポーツに関する活動	横浜府中学校総合体育大会ロードレース大会運営補助スタッフ	横浜市教育委員会事務局 小中学校企画課	単発	11月23日	14名
国際交流・多文化共生に関する活動	IFAD Youth Club (IYC) メンバー募集	IFAD (国際農業開発基金) Youth Club Japan	通年		15名
国際交流・多文化共生に関する活動	あーすフェスタかながわ 2024 企画委員&当日ボラ	あーすフェスタかながわ実行委員会事務局(神奈川県庁国際課)	単発	4月～11月	17名

横浜市立大学 ボランティア支援室

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
YCU スクエア 1階カウンター&2階 S27「Volounge」
Tel : 045-787-2444 Fax:045-787-2093
Mail : volunteer@yokohama-cu.ac.jp



ボランティア支援室 HP



ボランティア支援室 X



ボランティア支援室 Instagram

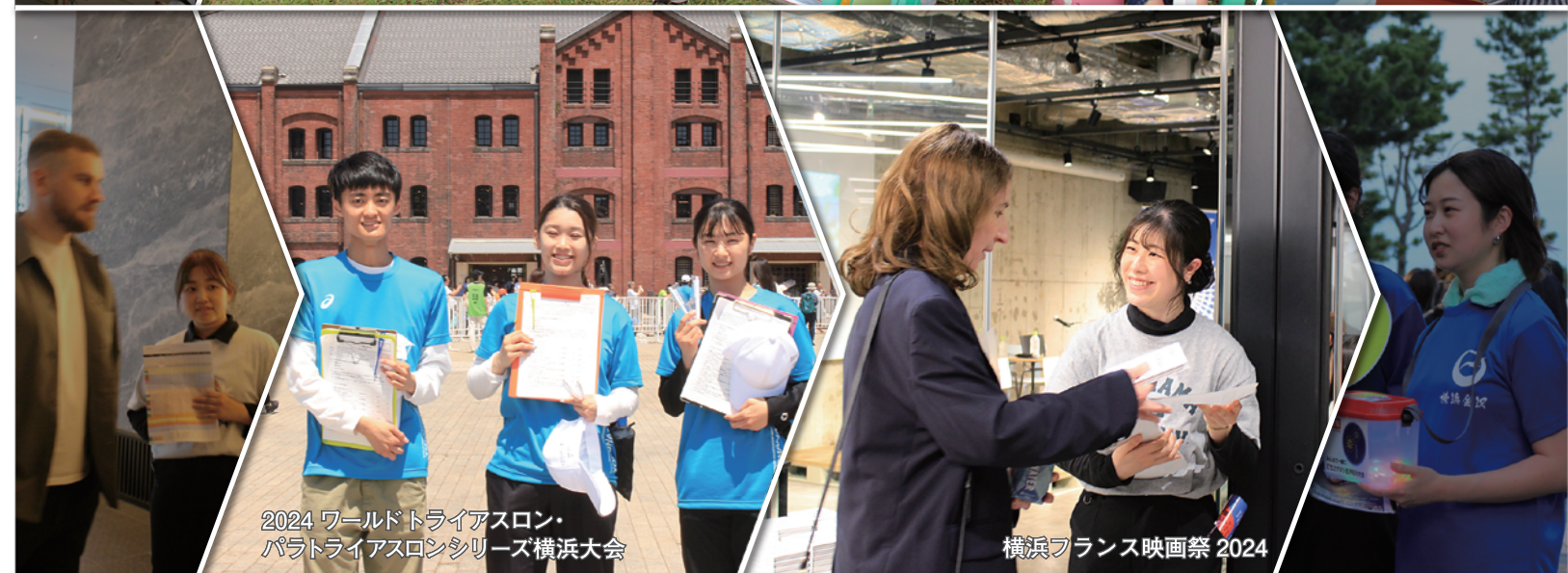


横浜市立大学 ボランティア支援室

報告書 2024



横浜マラソン 2024



2024 ワールドトライアスロン・パタライアスロンシリーズ横浜大会

横浜フランス映画祭 2024



2024 横浜八景島トライアスロンフェスティバル

寺子屋塾 西大道

日々学ぶ、
時代の変化に沿った学生支援

■登録・派遣・依頼数の考察

2024年度のボランティア登録学生数は2023年度より86名減って、376名にとどまりました(P.12 参照、2025年3月7日現在)。派遣数も昨年より100名減って、691名となっています。一方相談件数は、2024年度は513件となっており、2023年度の428件から大幅に増えています。

これは、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に少なくなり、軒並み大きなイベントが再開され、学生も活動自粛が解かれた反動もあって登録者数、派遣数ともに過去最高を記録した2022年、2023年から、少しずつ落ち着いてきたということなのでしょう。周囲の情報に影響されて何でもかんでもやってみる、というよりは、自分の興味・関心のあることや希望する活動をじっくりと調べ、周りに相談したうえで参加する、といった、学生の慎重な一面が表れているのかもしれない。

■「食の支援」で見えてきた学生の状況変化と、変化に合わせた支援の見直し

2021年度から継続4年目となった、生活が厳しい学生向けの「食の支援」活動は「配布日時時点で本学の在籍生であること」「ご家族等の支援が十分に受けられない状態（自宅外通学やひとり親世帯など）であること（自宅通学でも可）」「物価高のため生活費を切り詰めている状態であること」の3つに当てはまる学生に事前登録をしてもらい、食品等を配布しています（詳細はP6～P7）。2023年度のアンケートに「先着順だと不公平感がある」等の意見があったため、2024年度は1回目(8月2日)、2回目(11月13日)を120名分の事前予

約制にしました。受取場所も4つのキャンパスから選べるようにし、他キャンパスの学生の不公平感にも対応しました。

しかし、結果は第1回目、2回目で事前予約したにも関わらず、実際に指定の時間(それぞれ第1部)に受け取りに来なかった学生が、第1回は28名、第2回は25名いました。取りに来なかった学生の分は、申し込んだものの120名の枠に入らなかった学生に先着順で配布したので、結果としては生活が厳しい3つの条件に当てはまる学生にすべて配布はできました。しかし、120名の内約77～79%は生活がいまだ非常に厳しく食の支援を必要としている反面、取りに来なかった学生(約21～23%)にとっては、それほど緊急性がなかったとも考えられます。社会状況の変化に沿って支援方法の見直しが必要だということを考えさせられました。

■学生団体の自立・運営に学ぶ、チーム・ビルディング

2024年度はボランティア団体の活躍が目立った年でした。その一つが、「YCU×SEED プリスター回収プロジェクト」を担う団体として、ボランティア支援室が立ち上げからサポートしているCloverです(P.8 参照)。当初から関わっている学生が3・4年生となり、それぞれ就活等で忙しい中でも、幹部として必要な情報共有はもちろん、ちょっとした呼びかけなどもきめ細かく対応しているので、下級生のメンバーも信頼を持ってそれに反応しています。その結果、団体としての組織基盤や機能がしっかりと各メンバーに根付いて良い状態で回っているため、下級生のモチベーションも高まって、新たなプログラムへの挑戦な

ど活動の場や機会が広がっています。

もうひとつが医学部 YDC (Yokohama Dream Catchers) です(P.11 参照)。こちらは2010年から活動している団体ですが、毎年代表となる学生は前任者からしっかりと引継ぎを受けて、大所帯のメンバーをまとめ、各所への連絡や報告・相談も丁寧に行っています。YDCの場合は掲げるミッションが「地域の方や子どもたちへの医療教育の浸透」と明確なので、新メンバーにもそれが伝わりやすく、メンバー全員の意志統一が図りやすいこともあり、それが長年の継続にもつながっています。その中で毎年内容をブラッシュアップしながら活動の範囲を広げてきた結果、P.11にも書いたように、「一般消防功労者表彰(金沢消防署)」「神奈川県青少年育成活動推進者表彰(神奈川県福祉子どもみらい局)」「第6回上手な医療のかかり方アワード 厚生労働大臣賞 最優秀賞(厚生労働省)」等の受賞につながりました。

ボランティア支援室は、公認・非公認合わせて学生団体とのつながりが多い部署です。アフター・コロナ時代の学生団体支援については時代の変化を感じるとともに、日々多くのことを考えさせられ、学んでいます。まずは学生たち自身の自主・自立が大切ですが、それでも迷うことがあった時、ボランティア支援室ではどうやってサポートするか……。私たちスタッフもチーム・ビルディングについてきちんと学ぶ必要があると感じています。これからも引き続き団体・個人含めて、学生ならではの活動に寄り添い、学生とともに様々な課題の解決方法を考えていきたいと思っています。(コーディネーター 柳本 薫)

2024年度も、多くのイベントに学生ボランティアが参加しました。
ボランティア同士仲良くなって、交流が生まれるのもイベント・ボランティアの魅力です。

横浜マラソン
2024

フィニッシュエリアで、ランナーと喜びを共有！
朝7時45分から8時間にわたる活動で、23,000人余に対応

25,542 人が横浜のまちを駆け抜けた「横浜マラソン 2024」。本学の一般ボランティアが担当したのは、パシフィコ横浜臨港パークのフィニッシュエリア最終ポイントで、靴ひもにつけられた「計測タグ」を外すという活動でした。ランナーは、ゴール後メダルや参加賞等を受け取って、最後にタグを外します。ボランティアは、数列に並べられた小さな椅子に座って靴ひもにつけられた計測タグをニッパーで切ります。間違えて自分の手を切らないよう、軍手をはめ細心の注意を払いながらの作業でした。ランナーが途切れないため交代するタイミングが難しく、中には休みなしで対応してくれた学生も……。かがんだ体勢でニッパーを使う作業だったので、腰も手も固まり、とてもハードな活動となりました。一方、エリアの入り口周辺で誘導するメンバーは、空いている列を瞬時に把握して「右の列へお進みください！」「左が空いております！」と、声を張り上げていました。

フィニッシュしたランナーは皆、疲労はあってもそれに勝る達成感と喜びにあふれています。タグを外すそのわずかな時間に、ボランティアとの間で「おめでとうございます！」「ありがとう！！」「お疲れさまです！」「ボランティアの皆さんもお疲れさま！」といった会話が飛び交い、ボランティアの学生にとってもその一瞬の触れ合いが楽しく、やりがいを感じられる瞬間だったようです。

医学部のある市大ならではの救護ボランティアは、2か所で活動しました。ボラ室からの募集メンバーは「山下ブロック第3・14救護所」を、YCU 救急サークル FLY は「首都高鳥浜第9救護所」を担当しました。

また本学からは、3つの学生団体がバ



Seagullsの応援の様子。



腰をかかめてニッパーで計測タグを外します。

フォーマンスに参加しました。「応援団チャリリーダー部 Seagulls」と「吹奏楽団奏」は、パシフィコ横浜交差点でファンラン（ファミリー・中学生）、車いすチャレンジのスタートを応援。「ピアノ会」は第4給水所で、給水パフォーマンスに参加しました。多くのランナーの方々が、学生団体のパフォーマンスに手を振り返してくれていました。

■実施日/10月27日(日)
■場所/横浜市中区パシフィコ横浜周辺
■一般ボランティア/23名、救護ボランティア/ボラ室募集7名、YCU救急サークルFLY11名、応援パフォーマンス/Seagulls22名、奏25名、給水パフォーマンス/ピアノ会9名



★「横浜マラソン 2024」
レポートはこちらから。

第50回金沢まつり
花火大会募金活動

金沢区の海と夏を象徴する
花火大会募金活動に、
多くの学生が参加

「第50回金沢まつり花火大会」は8月24日(土)、約3,500発の花火が打ち上げられ、25万5千人の人々が鑑賞して無事終了しました。打ち上げの前には本学の学生ボ

ランティアが、地域や金沢区の職員の方々と一緒に募金活動を行い、約340万円の募金が集まりました。この募金は翌年の開催資金となります。

18時からの募金活動では、「ボキン」うちわやメガホンを持って、まるで推し活のように大声を張り上げて呼びかけることに最初は恥ずかしさがあったようで、なかなか声の出ない学生もいました。しかし徐々にあたりが暗くなってくると会場も賑わい、それにつられて皆大声が出るようになっていきました。

そして花火終了後は、たった今日の前で見たばかりの花火を来年も楽しみたい、という気持ちからか、募金をしてくれる方も増えます。学生もここがチャンス！とばかりに



最初は少し恥ずかしさも…。



呼びかけ、そして感謝の言葉を忘れずに伝えていました。

打ち上げの間は、募金の手を止めて花火を楽しむことができるのもこの活動の魅力です。「横浜に来て初の海の公園、初の花火」という学生も多く、三々五々スマホを向け花火撮影を楽しんでいました。

■実施日/8月24日(土)
■場所/横浜市区金沢区海の公園
■ボランティア学生/20名、金沢区役所インターン生/2名



★「第50回金沢まつり
花火大会募金活動」レポートは
こちらから。

2024ワールドトライアスロン・ パラトライアスロンシリーズ横浜大会



オリンピック出場直前の
選手もサポート！
貴重な体験の機会に

今大会は、7月のパリ2024夏季オリンピックを目指す選手にとってポイント獲得対象大会でもあったため、トップレベルの選手による熾烈な戦いが繰り広げられました。「アスリートラウンジとフィニッシュエイド」では、各カテゴリーのスタートを控える選手への案内や、フィニッシュ後のチップの取り外しなどに対応しました。選手から質問を受けることも多々あり、それぞれ英語で回答・案内する場面も多く、ボランティア参加学生はそれを楽しんでいたようです。競技が終わって引き上げてくる選手は悲喜こもごも。体力を消耗きった選手もいるし、歓喜にあふれた選手もいます。中には一人涙する選手も。そ



バラが美しい山下公園での活動。

んな選手それぞれの状況を的確に判断し、何も言わずにドリンクを渡したり、拍手をして迎え入れたり、狭いテントの中で繰り広げられるさまざまなドラマに触れる活動でした。

「インフォメーション」に参加した学生は、山下公園内と赤レンガ倉庫周辺の2か所で、来場者・観覧者に向けたアンケートの依頼と回収を担当しました。それぞれ2〜3名のチームになって、100名を目標に紙で記入するアンケートをお願いして、お礼の品を渡す、という活動です。学生たちからは「なかなか回答してくれる人がいなくて大変だったけれど、みんなで協力して目標の100人に答えてもらえたので良かった」という声もあり、競技に直接関わる活動ではなかったものの、自分たちなりの目標を定めて力を合わせ、それぞれが達成感を得られたようです。

また華やかな大会の裏方として活動するスタッフの姿を間近で目にして、瞬時の状況判断や臨機応変な動きが大切であることも感じたようです。「ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」は毎年ゴールデンウィーク明けに開催されるた



お天気にも恵まれ、横浜らしさを感じらる会場。

め、1年生の参加が多いのですが、ボランティアが初めてという学生にとってはとても刺激的で、大きな学びとなったのではないのでしょうか？

■実施日/5月11日(土)、12日(日)
■場所/横浜市中区山下公園周辺
■11日エリート/アスリートラウンジ&フィニッシュエイド対応8名、インフォメーション5名、12日エイド/選手受付&メダルセレモニー選手招集4名、インフォメーション3名



★「2024ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」レポートはこちらから。

2024 横浜八景島トライアスロン フェスティバル



ファミリー参加も多い八景島
トライアスロン大会で深まる
ボランティア同士のきずな

毎年9月に海洋レジャー施設、横浜・八景島シーパラダイスで開催される今大会は、子どもから大人まで、また初心者でも楽しめる大会です。本学からも近く、レジャー施設での開催ということもあり学生にも人気で、2024年も10名の学生が参加しました。

今回はフィニッシュエイドの担当として、ゴール後の選手へのメダルや記念品、ドリンクの配布、計測タグ外しなどを行いました。途中、人が足りなくてゴールテープを担当した時間もありましたが「フィニッシュエリア」という限られた場所を10人で担当したこと



フィニッシュゲート前に集合！

で、学生同士のコミュニケーションも深まり、お互いにフォローし合って充実した活動になりました。

本格的なレースを目指すスプリントはもちろん、パラトライアスロンやアクアスロン、小学生が一人で参加できるデュアスロンやファミリーレーなどの種目もあり、和気あいあ



フィニッシュした選手へおむすびの配給や対応

■実施日/9月29日(日)
■場所/横浜・八景島シーパラダイス、LINKAI 横浜金沢(金沢深部産業団地周辺)
■ボランティア学生/10名

第13回アジア・ スマートシティ会議



英語力を試す場所、持続可能な
都市づくりを学べる場所としての
ボランティア

本学で人気の「国際会議」での活動ということで、平日開催にも関わらず19名の学生が参加しました。会議のテーマは「脱炭素・グリーントランスフォーメーション」。46か国から2,200名超が来場しました。

「受付」「同時通訳レシーバー貸出」「会場案内」担当はフォワイエや会場の入り口周辺を担当し、朝一番の時間帯や、セッションの開始・終了時間前後は人の出入りも多く、集中的に忙しい活動でした。「企業面談受付テーブル」「VRブース」担当は会場内に設置されたテーブルでの来場者対応でし



英語を試せるインタビュー活動。

た。どちらの担当も、海外・国内からの来場者に向けて所どころ英語も交えて説明するなど、英語の実践の場になったようです。

「インタビュー」は24日のみでしたが、2〜3人で一組になって、ブース出展企業や来場者に参加の動機や感想などを聞き、後日原稿を提出す

るという活動です。各グループとも積極的に声掛けして、多くの方々とお話しできました。

時間帯によっては手の空くこともあり、横浜市国際局のご配慮でセッションへの参加やブース見学ができました。興味・関心のあるセッションを聞きながらメモを取る学生、企業ブースでの最先端の技術体験、登壇した先輩や海外からのビジネスマン・留学生との交流、初めて目の前で聞いた山中市長の演説など、キャンパスではできない、貴重な経験ができました。

終了後横浜市国際局から参加学生へ感謝状が贈呈され、12月4日(水)昼休みに感



セッションに登壇していた卒業生、株式会社 StockBase を立ち上げた関芳実さんと一緒に記念撮影。

謝状の授与式を行いました。国際局の担当係長やボランティア担当のYUSA(一般社団法人 Yokohama Urban Solution Alliance)の方とも交流ができ、2025年の第14回アジア・スマートシティ会議やTICAD9など新たにモチベーションを刺激されるイベントの話を聞くことができました。

■実施日/10月23日(水)、24日(木)
■場所/パシフィコ横浜 ノース
■ボランティア学生/19名



★「第13回アジア・スマートシティ会議」レポートはこちらから。

横浜フランス映画祭 2024



フランスの“パッション(情熱)”を
身近で体験

31回目を迎えたフランス映画祭は、7日間にわたり横浜みなとみらいを拠点に開催されました。本学から37名の学生がボランティアとして参加し、延べ30のシフトに分かれて活動しました。

3月20日(水・祝)、日仏の映画人や俳優など約150名を招いたカクテルパーティがウェスティンホテル横浜で開催され、5名の学生ボランティアが、多くのゲストが出入りするボールルームで俳優や監督を顔写真リストから探し当て、1階玄関の車まで誘導しました。その後の桜木町駅前のレッドカーペット会場では、10名の学生ボランティアが多くの歩行

者に向けて、立ち止まらずに移動するように呼びかけました。18時過ぎには特別アンバサダーの役所広司さんが登場！参加した学生はすぐそばで、コメントを聞くこともできました。

コレットマーレ6階のブルク13ではオープニング上映と舞台挨拶があり、配布物の準備や受付対応、上映前に諸注意などを伝える影アナウンス(影アナ)を担当した学生もあり、緊張感のある体験ができました。

3月23日(土)には、ゲストによるセミナー形式の「マスタークラス」がみなとみらいサテ



メイン受付で、笑顔で対応。



観客に配布するチラシのセット作りも。

ライトキャンパスで実施されました。こちらに参加した4名は会場の誘導・案内のほか、登壇したフランスのトップスター、ヴァンサン・ラコストさんと『日本のシドニー』のエリーズ・ジラル監督などとも近くで接することができ、この活動の醍醐味を味わいました。

■実施日/マーケット3月18日(月)19日(火)、映画祭本イベント3月20日(水・祝)〜24日(日)、マスタークラス3月23日(土)3クラス
■場所/歌舞伎町タワー17階 JAM17 SPACE EAST、桜木町駅周辺、横浜市立大学みなとみらいサテライトキャンパス等
■ボランティア学生/37名



★「横浜フランス映画祭2024」レポートはこちらから

循環型「食」の協働プロジェクト (食のサイクル活動)



2021年度から継続的に行っている生活が厳しい学生向けの「食の支援」は、「循環型『食』の協働プロジェクト」(食のサイクル活動)の一環として、2024年度も3回実施しました。「配布日時で本学の在学学生であること」「ご家族等の支援が十分に受けられない状態(自宅外通学やひとり親世帯など)であること(自宅通学でも可)」「物価高のため生活費を切り詰めている状態であること」の3つの条件に当てはまる学生に事前登録をしてもらい、登録者には詳細案内を送って当日取りに来てもらうという流れです。2024年度は、事前登録した学生計395名に配布できました。

また「食の支援」で配布しきれなかったものは引き続き「食品ロス削減活動」として全学生に向けて配布しました。

配布方法を 試行錯誤しながらの 「食の支援」活動

2024年度の「食の支援」は8月2日(金)、11月13日(水)、2025年1月29日(水)の全3回実施しました。

8月の「第1回食の支援」と11月の「第2回食の支援」では120名分の事前予約品を準備し、それぞれ379名、494名(第1回から115名増加)の事前登録者から先着順で申し込みを受け付けました。受取り場所を4キャンパスから選べるようにして、他キャンパス希望者(2回とも各13名)分は事前に各キャンパスに送り、各キャンパス窓口で配布しました。

八景キャンパスでは第1部と第2部に時間を分け、第1部では予約品120名分と、賞味期限が近い、納品期限切れ、破損がある等の食品や日用品(ロス品)を配布しました。「第1回食の支援」の第2部では、1部で取りに来なかった予約品とロス品を、120名にもれた事前登録者に先着順で配布しましたが、「第2回食の支援」の第2部では、第1部で残った予約品は「第3回食の支援」に持ち越し、ロス品のみ配布しました。「第1回」と「第



8月2日、第1回「食の支援」

2回」で、それぞれ事前登録した学生107名、165名に配布することができました。また、1部・2部で配布しきれなかったものは、1回2回ともYCUスクエア1階掲示板前に移動して事前登録していない学生にも配布し、すべてなくなりました。

2025年1月に実施した「第3回食の支援」では、「第2回」で残った予約品と、新たに届いたロス品を事前登録者559名(第2回から65名増加)に先着順で配布しました。時

間内に来た事前登録者は123名。余ったものはその後YCUスクエア1階掲示板前に移動して、全学生に向けて配布しました。

「第1回」「第2回」では、新型コロナウイルス対策基金を使って横浜市立大学生協よ



2025年1月29日、第3回「食の支援」

り食品・生活用品を購入しました。新型コロナウイルス対策基金(※)にご支援くださった地域の方々並びにOB・OGの皆さまにこの場を通じて感謝申し上げます。



★「新型コロナウイルス対策基金」についてはこちらより



11月13日、第2回「食の支援」



本学ならではの、 団体・企業等と協働した 「食品ロス削減活動」

「食の支援」活動には、2024年度も引き続き公益社団法人フードバンクかながわ、NPO法人セカンドリグ神奈川、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会、株式会社ロフト、株式会社オーバースーズ、横浜市信用保証協会などの団体・企業にご協力いただきました。全3回の「食の支援」でご支援いただいた、これらの企業等で大量に余った賞味期限が近い、納品期限切れ、破損がある等のいわゆる「ロス品」は、3回合計で延べ96種、24,008点に及びました。

また上記の団体・企業には、ロス品が出たときには随時ご連絡をいただきYCUスクエアに搬入をお願いしています。これらは「食品ロスの削減活動」として全学生に向けて配布しており、2024年度は10回実施しました。循環型「食」の協働プロジェクトとしても、食品ロスの削減に協力することができたことが大きな成果です。



4月に実施した全学生向け食品ロス削減活動「アイス配布」。

- 食の支援/実施日・場所・配布人数
- 第1回/8月2日(金)YCUスクエア ビオニーホール、登録者107名に配布
 - 第2回/11月13日(水)文科系研究棟1階 大会議室、登録者165名に配布
 - 第3回/2025年1月29日(水)YCUスクエア ビオニーホール、登録者123名に配布
- 全学生向け食品ロス品削減活動/実施回数
- 「食の支援」後3回、随時開催10回



★「循環型「食」の協働プロジェクト」(食のサイクル活動)詳細はこちらから

学生による「循環型『食』の 協働プロジェクト」の取組、 「食の支援前日ボランティア」& 「駅前フードドライブ」

学生による「循環型『食』の協働プロジェクト」(食のサイクル活動)に関連する取組として、「食の支援」の前日に箱出しや配架をお手伝いしてもらう「食の支援前日ボランティア」や、ボランティア支援室学生スタッフ「Volunch」の食の支援グループ(※P10.参照)による「駅前フードドライブ」など、学生による活動も活発に行われました。

「食の支援前日ボランティア」では、3回の「食の支援」前日に、公益社団法人フードバンクかながわなどの団体・企業から集まった大量の支援品を段ボールから出して並べたり、掲示物を作ったり、職員だけでは対応しきれない作業をボランティアの学生に手伝ってもらいました。

また、ボランティア支援室学生スタッフ「Volunch」の食の支援グループ(P.10参照)は、年末に大掃除を済ませた各家庭から出る、賞味期限の近い食品などを金沢八景の駅前で集めて、いつも「食の支援」で



8月1日第1回「食の支援前日ボランティア」



駅前フードドライブで集まった食品を、公益社団法人フードバンクかながわに寄附。



12月24日「Volunch」食の支援グループによる金沢八景駅での「駅前フードドライブ」の様子

お世話になっている公益社団法人フードバンクかながわに寄附する「駅前フードドライブ」を行いました。地域の皆さんから寄附された食品は、賞味期限などの確認後公益社団法人フードバンクかながわに寄附しました。

- 食の支援前日ボランティア/実施日・場所・ボランティア学生
- 第1回/8月1日(木)YCUスクエア ビオニーホール、10名
 - 第2回/11月12日(火)文科系研究棟1階大会議室、7名
 - 第3回/2025年1月28日(火)YCUスクエア ビオニーホール、4名
- 駅前フードドライブ/実施日・場所・ボランティア学生
- 12月20日(金)金沢八景駅高架下、Volunch食の支援グループ4名
 - 12月23日(月)金沢八景駅高架下、Volunch食の支援グループ4名

YCU×SEEDブリスター回収プロジェクト



Clover(シーラバー)は、SDGs14「海の豊かさを守ろう」の解決を目指して 2022 年度から活動を開始しました。環境問題に関心を持つさまざまな学部・学年のメンバーで構成されており、多様な視点から課題に向き合っています。

創立当初から株式会社シードの「BLUE SEED PROJECT^(※1)」に協力し、大学内でコンタクトレンズ空ケース(ブリスター)の回収を行っています。毎月 3000 個以上集まるブリスターは株式会社シードに発送後、物流パレットなどの材料として業者に買い取ってもらい、収益は海洋ごみ問題に取り組む団体に全額寄付されます。(国際教養学部3年 中川広望)

■YCU×SEED ブリスター回収プロジェクト「学生団体 Clover」参加メンバー /19 名



★Clover の「X」はこちらから



(※1)「BLUE SEED PROJECT」

株式会社シードの鴻巣研究所でコンタクトレンズ生産工程を見学

私たちが集めているブリスターやコンタクトレンズについて詳しく知るために、埼玉県にある株式会社シードの鴻巣研究所に見学に行かせていただきました。

工場見学の前には、コンタクトレンズ開発の歴史を知るために、テレビ取材映像を鑑賞しました。昔のコンタクトレンズはオーダーメイドが当たり前で、レンズ番号を書くことも手作業だったそうです。今は工程のほとんどが機械化され、高い正確性で異物混入を防ぎつつ、異常を検知した場合は人の目で原因を突き止めて再発防止に役立っているという、機械と人との役割分担がされていました。また、環境問題への取り組みとして、製造工程で排出されるランナーと呼ばれるブリスターの枠部分は、細かく粉砕され再利用されていました。

工場見学後には、隣接する保育園にお邪魔しました。厨房内の様子が見えるようにつけられた段差や、幼いころから理科に興味を持ってもらえるような理科実験室など、様々なことに触れられる工夫がされていました。工場見学を通して環境問題やSDGs への取り組み、資源を無駄にしないための工夫等を学ぶことができて大変勉強になりました。(理学部3年 大東優紀)



■実施日 / 3月28日(木)
■場所 / シード鴻巣研究所
■参加メンバー / 6名

「海洋都市横浜うみ博 2024」に出展！



子どもたちも興味津々の「環境まんげ鏡」。

8月に開催された「海洋都市横浜うみ博 2024^(※2)」(主催 海洋都市横浜うみ協議会)に出展団体として参加し、海洋ごみを使用した手作りの「環境まんげ鏡」を展示しました。多くの子ども



(※2)「海洋都市横浜うみ博 2024」

取ってくれたほか、Clover の活動に関心を持ってお声がけしてくださる大人の方々もいらして、自らの活動や問題意識を社会に共有する意義と喜びを実感しました。私たちの活動は、多くの方々の支えがあり成り立っています。今後も学びながら海洋問題の解決に向けて真摯に取り組んでいきます。(国際教養学部3年 中川広望)

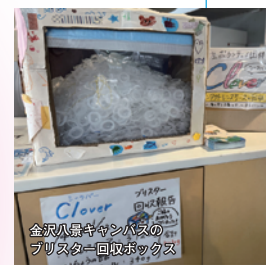
■実施日 / 8月3日(土)4日(日)
■場所 / 横浜役所アトリウム、大さん橋ふ頭
■参加メンバー / 3日2名、4日6名



学内では順調にブリスターを回収中！

2024年度は、金沢八景キャンパスで約35kg(35,005g)、福浦キャンパスで約7kg(6,855g)のブリスターを回収し、年度末に株式会社シードに送付しました。株式会社シードに集められたブリスターはリサイクルされて、物流パレットとなって半永久的に物流の現場で使用されます。

また、2025年度からは、新たにみなとみらいサテライトキャンパスでも回収を開始することが決定しました。



浜大祭に3回目の参加！

昨年、一昨年に引き続き浜大祭で、うみ博で実施経験のある「環境まんげ鏡」の展示、マイクロプラスチックを使ったアクセサリー作り、ブリスターを下絵に貼ったブリスターアート(スイミー)などに取り組みました。



■実施日 / 11月3日(日・祝)4日(月)
■場所 / 本校舎 202 教室
■参加メンバー / 3日8名、4日9名

「第17回川崎国際環境技術展」に参加

川崎市市制100周年を記念し、学生の就労意識と企業の SDGs への取り組み意欲の醸成を目的とするイベントで、企業の方と2人1組のペアを組んで「SDGs カードゲーム」に参加しました。

■実施日 / 11月14日(木)
■場所 / カルッツかわさき(川崎市川崎区富士見1-1-1)
■参加メンバー / 4名

「3 Step ボランティア実践講座」



Step1の対面開催はかなわず、課題も残った2024年度

本講座は、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となりましたが、2021年度からは関東学院大学もパートナーとなり、金沢区内2大学の学生が福祉分野のボランティア活動に参加するための入り口として、定着してきました。

福祉関係の活動では特に、人との触れ合いや交流を大切にすることが求められることもあり、Step1とStep3については企画段階から「できれば参加する学生とのコミュニケーションをよりスムーズにするためにも、対面で実施したい」という希望がありました。Step1では活動参加前に不安を抱く学生



★「3Step ボランティア実践講座」についてはこちらより



対面で実施された Step3 のグループワークの様子。

に対し、区内に10カ所ある地域ケアプラザのコーディネーターが丁寧に話を聞くなど、その不安を解消することが大きな目的です。またStep3では、参加した学生による振り返りの共有や参加したメンバー同士の意見交換、コーディネーターからのフィードバックやアドバイスなどが大きな目的だからです。

しかし、2 大学合同で実施するためには、開催場所・時期・時間のすり合わせなど課題が多く、2024年度も何度も打ち合わせを重ねましたが、2023年度に引き続きStep1はオンラインで、Step3は夏休み中に開催することで本学での対面実施となりました。

地域の方との交流の場、Step2「むうたんカフェ」

Step2の体験現場をレポートします。六浦地域ケアプラザの「むうたんカフェ」は、月に1回 13:30～15:00に開催されています。この日は逗子で活動する団体によるマンドリンの演奏もあり、30 余名の参加者がお茶菓子を食べながら楽しい時間を過ごしました。ボランティア実践講座 Step2 の体験として、学生6名(市大4名、関東2名)が参加。登録している一般のボランティアや地域ケアプラザのスタッフに教えていただきながら、受付や席の案内、お茶やお菓子の準備・提供、後片付けなどを体験しました。“多世代交流カフェ”というコンセプトですが、実際は高齢の方の参加が多いため、学生ボランティアが参加することで多世代での交流の場となっていました。

参加した学生からは「ケアプラザに初め

2024年度で8回目となった「3Step ボランティア実践講座」は、2023年度に引き続きStep1「基礎講座」をオンラインで、Step2「ボランティア体験」は現場での実践、Step3「振り返り」は対面で実施しました。社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会、金沢区内の各地域ケアプラザ、関東学院大学、横浜市立大学によるこの協働プログラムは、毎年ブラッシュアップを重ね、講座に参加した学生がその後福祉関係の仕事に進むなど、学生のキャリアにもつながっています。

Step2では、区内10カ所の地域ケアプラザから「障害者支援」「高齢者支援」「子ども支援」の3つのカテゴリーで合計26プログラムを紹介していただきました。しかし6つの活動が天候不良により中止となり、結果“参加プログラムゼロ”になった学生が出てしまったことは、来年度検討が必要な大きな課題として残りました。

Step3では、参加した両校の学生を4グループに分け、そこに体験先でお世話になった金沢区内の地域ケアプラザのコーディネーター、区社協や大学の職員が入って、体験の振り返りと感想の共有を行いました。参加者全員によるひと言コメントなど、体験を言語化することによって、より深い学びを得られるワークとなりました。

■実施日 /
●Step1/6月26日(水)、横浜市立大学15名、関東学院大学17名
●Step2/7月24日(水)～9月15日(日)、横浜市立大学延べ20名、関東学院大学延べ54名
●Step3/9月19日(木)、横浜市立大学8名、関東学院大学13名
■場所 /
●Step1/ オンライン(Zoom)
●Step2/ 横浜市金沢区内各地域ケアプラザ
●Step3/ 横浜市立大学 YCU スクエア1階ビオニーホール



て入ったので、こんな活動をしていたのだと初めて知りました」「これだけ多くの方が毎回参加しているというのは、広報紙がしっかり地域の方に伝わっているということ。活動が根付いていて素晴らしい」「『ボランティアをする』という意識ではなく『みんなで楽しむ』ということが大切なのだった」といった感想が寄せられました。



■実施日 / 8月19日(月)
■場所 / 六浦地域ケアプラザ
■参加メンバー / 横浜市立大学4名、関東学院大学2名

ボランティア支援室 学生スタッフ 「Volunch」とは

夏休み3日間の子どもの
交流プログラム
「寺子屋塾 西大道」

2024年度は、寺子屋塾初日が前期授業の最終日に重なったため、学生が参加できたのは2日目と3日目のみでした。参加した子どもは2年生～5年生の合計13名。2日目となった8月1日(木)は、午前中の2時間



小学生、大学生、スタッフの皆さんと恒例の集合写真。

西大道町内会お餅つき

最近はお餅つきをする機会が少なく、久しぶりにお餅つきをしました。数回杵を振り下ろすだけでヘトヘトになってしまうのですが、掛け声をかけあって楽しくお餅つきができました。

子どもたちが何度もおかわりしてはおぼっている姿が印象的で、その笑顔の一助

【国際交流・地域交流グループ】

外国人のためのミカン狩りイベント

2024年度は金沢国際交流ラウンジの交流企画グループと一緒に、「外国人のための日本文化体験～にほんのあそび」と「外国人のための散歩ツアー～ミカン狩り」の企画・運営に参画しました。ミカン狩りは、金沢区に住んでいる外国人の方へ向けて、ミカン狩

【資源リサイクルグループ】

浜大祭で取組んだ「本マッチ」

資源リサイクルグループは2023年度に引き続き浜大祭に出展し、いらなくなった本や読まなくなった本を持ち寄り、それらを会場に並べて次に読んでみたいと思った本と交換する「本マッチ」を行いました。寄附してもらう本のジャンルは何でもOK。浜大祭の

「ボランティアの楽しさを発信し“ボランティア支援室と市大生”“市大生と地域”をつなげる」「自らもボランティアに参加することで、経験値をあげる」のふたつを目標に活動している学生団体です。

2024年度は「食の支援グループ(P.7「駅前フードドライブ」参照)」「資源リサイクルグループ」「国際交流・地域交流グループ」「子ども食堂グループ」に分かれて活動しました。また西大道町内会主催の「寺子屋塾 西大道」「西大道町内会お餅つき」に参加し、「寺子屋塾 西大道」では夏休みに地域の小学生との交流を楽しみました。

が勉強の時間で、夏休みの宿題や子どもたちが持参したドリルなどを、学生と一緒に見てあげました。地元のお母さんたちが作ってくれたお昼をいただき、午後は西大道かるた作り。子どもたちは走り回ったりおしゃべりし合ったりしながらも、学生のサポートでどうにか意見をまとめて、各グループとも素敵なるたが出来ました。

昨年に引き続き参加した学生たちは「子どもたちが元気すぎて大変なこともあるけれど(笑)参加して本当に良かったと今年も思えました。去年出会った子どものこ

となれたことを嬉しく感じました。一緒にお餅の準備をしていた地域の方と交流することもでき、終了後に達成感を味わうことができました。

「新型コロナウイルス感染症の流行によって地域住民との関係がますます希薄になっている中、西大道町内会がお餅つきを続けている理由は、地域の繋がりを大切にしたいという思いからです」と、町内会の方から伺いました。少子高齢化が進む地域を活

りを通して町について知ってもらうというものです。

当日は様々な国や年代の方が参加しており、たくさんお話をすることができました。中には小さな子どももいて、イベントが終わったとき「今日はありがとう!また来年も参加するね!」と言われ、とても嬉しかったです。

ミカン狩りが始まると参加者全員夢中になり、よく熟れたミカンを探ってはたくさん



本との新しい出会いの場を作った「本マッチ」。

前には、SNSなどでヨコイチ生にも、いろいろな・読まない本の寄附を案内して、本を集めました。



大学生のお姉さんと一緒に勉強も色々学びます!

とも覚えているし、成長を感じました」と話してくれました。

■実施日/7月31日(水)～8月2日(金)
■場所/横浜市金沢区西大道共立会館(西大道町内会)
■Volunch 参加メンバー/4名(2日間延べ6名、蛭田、田嶋、藤森、伊藤)

気づけるために、若者(学生)の存在が重要になっているのだと考えさせられました。(Volunch1年 弘田桃子)



参加者に配るお餅を準備中!

■実施日/2月9日(日)
■場所/西大道共立会館(西大道町内会)、伊賀山公園
■Volunch 参加メンバー/2名(福丸、弘田)

食べていました。子どもたちは袋にどれだけのミカンを入れて持ち帰れるかを競うなど、とても楽しそうでした。ボランティアの学生たちも、夢中になってミカン狩りを楽しむことができました。(Volunch1年 ホリングワース麗奈)

■実施日/11月10日(日)
■場所/柴シーサイドファーム、芝生公園、宝蔵院、柴漁港
■Volunch 国際交流・地域交流参加メンバー/3名(ホリングワース、原子、鈴木)

来場者は1日目が170人、2日目が147人となり、「自分の感覚とは全く違う本に出会うことができました。ありがとうございます」といったコメントもいただきました。当日余った本はYCU 古本募金と、WE21ジャパン 古本募金に寄附しました。

■実施日/11月3日(日・祝)4日(月)
■場所/本校舎108教室
■Volunch 資源リサイクル参加メンバー/4名(石丸、高村、早川、弘田)



Volunch[X]



Volunch[Instagram]

ボランティア支援室では、地域貢献活動に取り組むさまざまな学生団体を支援しています。

■キャンパスタウン金沢サポート補助金事業

横浜市立大学と関東学院大学、金沢区が連携しだ大学の活力を生かしたまちづくり「キャンパスタウン金沢」の本学事務局を、ボランティア支援室が担っています。2024年度は以下の4団体が採択されました。

◎医学部YDC(Yokohama Dream Catchers) 金沢区内の小中学生向け 医療訪問授業

2010年から市民の方へ正しい医療知識の提供を行っており、特に「子どもたちの夢を医療に繋げたい!」という想いで活動しています。小中学校への訪問授業や幅広い年代の方を対象にした医療教室など、2024年

◎三輪研究室 みんなでまち保育プロジェクト

まちをつくっている要素の中でも「コミュニティ・居場所」に着目し、①胎児期からのまち保育、②子育て支援のアウトリーチ、③小中高生の居場所づくり、④インクルーシブ視点のまち保育などについて学習・活動しています。



「まち保育」の考えの下、子どもたちと地域をつなげることを目標として活動。

ボランティア支援室では、学内外で活動するボランティア団体のサポートを行っています。

◎医学部YDC(Yokohama Dream Catchers) 金沢消防署と連携して開催した 「医療体験教室」

2024年度は金沢消防署と連携し小中学生に向けた「医療体験教室」を2回開催しました。YDCが継続的に実施している訪問授業では、救急医療の現状、医療機関の使い分け、救急車の呼び方、応急手当や心肺蘇生の方法などを伝えています。これらの内容は、広く地域の方々にも知っておいていただくことで、よりスムーズな救急対応が可能になり、消防署にとっても非常に有意



活動は主にZoomを使って行っています。

度は15回の授業や教室を開催しました。

また2024年度は、金沢消防署と連携して実施した「医療体験教室」の功績による「一般消防功労者表彰(金沢消防署)」をはじめ、「神奈川県青少年育成活動推進者表彰(神奈川県福祉子どもみらい局)」「第6回上手な医療のかかり方アワード 厚生労働大臣賞 最優秀賞(厚生労働省)」を受賞しました。

◎角田隆一ゼミナール写真部 金沢八景時層写真プロジェクト

横浜市立大学現代社会論ゼミの教員・卒業生・在学生が取り組む「時層写真」プロジェクトは、地域のリサーチを積み重ね、地域住民の思い出写真とそれをめぐる語りを活かした作品制作や、街歩きワークショップを行っています。



★角田ゼミのXはこちらから。



「金沢八景」のイメージを有意義なものに再構築するためのプロジェクトに取り組中。



1月7日、金沢区消防出初式において金沢消防署から「一般消防功労者表彰」を受賞。右は本学の近野理事長。



X



instagram

★医学部YDCのXとinstagramはこちらから。

◎Hair for Children ヘアドネーション活動

全国から頭髮の寄附を募り、株式会社アートネイチャーと協力して小児がん等の病気で事故で頭髮を失った子ども達に「幸運のウィッグ」を届ける活動をしています。普段は頭髮の長さごとの仕分け、おれのお手紙書き、病院での頭のサイズ採寸などを行っています。



★Hair for ChildrenのHPはこちらから



集まった頭髮の仕分け作業。

義です。今回は消防署からのお声がかけて開催につながりました。

当日は前半に、YDCによる講義と心肺蘇生法&AEDの体験。後半は2グループに分かれて、消防署の職員による初期消火体験や煙体験、防火服試着、救急車内の見学等、子どもたちにとってはワクワクするような楽しいプログラムと、YDCの学生による「なぜ医学部を目指したか」を先輩として子どもたちに伝えるキャリアプログラムを行いました。



心肺蘇生法を体験。子どもにとってはかなりの体力が必要です。



授業に先だって自己紹介する学生。

■実施日/9月14日(土)、2月11日(火・祝)
■場所/金沢消防署
■YDC参加メンバー/9月14日11名、2月11日12名

◎one by ONE 院内家庭教師活動と 小児病棟向けイベント企画

one by ONEは、入院により学習から切り離されてしまいやすい状況にある、小児入院患者さんを対象としたベッドサイドの家庭教師ボランティアを、横浜市立大学附属病

院や横浜市立大学附属市民総合医療センターをはじめ、さまざまな病院で行っています。勉強のサポートはもちろん合間の雑談など、入院中のちょっとした息抜きになれるような活動を目指しています。また、小児病棟でのイベント(オンラインでの似顔絵イベント、ピアノ演奏会など)など、入院中のお楽しみイベントも行っています。